

アート エンターテインメント ノナカ ヒル 角永和夫の彫刻を展示

1977年から1999年にかけて木、紙、竹、ガラスで制作された角永和夫による彫刻は、7月21日から9月8日までロサンゼルス720 N. Highland Ave.のNonaka-Hillで展示され、9月まで展示されます。オープニングレセプションは、土曜日の午後5時から8時まで開催されます。林業の子孫である角永、



1960年代後半にアーティストになることを選びました。彼は最初に絵を描いてみましたが、1970年頃に彼は自分の手の個人的で芸術的な表現を避け、自分の選んだ素材が彼ら自身の自己代表的な主題になるプロセスを開発することを選びました。彼の作品は、作品の最終的な形を決定する媒体の生来の特徴を明らかにしています。彼は、発展途上アーティストとして、アルテポベラ、もの派、プロセスアーティストの作品に感銘を受けましたが、材料を徹底的に体系的に探究する実践を模索していました。完全なギャラリーショーでは、角永は1977年から「Wood No. 8-D」を展示します。この杉の丸太は、12フィートの長さに沿って一定の間隔で穀物を横切ってストロークされ、アーティストのアクションとマテリアルの自然な反応の両方を明らかにします。ピアノの鍵盤に似たパターンのひび割れ。1984年の別の作品「Wood No. 5-CI」は、13½フィートの長さに沿ってベニヤスライスされ、結果として得られたウェーハの薄い面は、コアの元の位置に接着され、最外縁が常に応答できるようにしました。-環境条件の変化。1983年のペーパーワーク「Paper 1-BF」は、製紙工程で湿った状態で、3,000枚以上の手作り和紙を重ね合わせたものです。

積み重ねられたシートは、一端で極度の重さで圧縮され、他端では、シートが剥がされて、紙繊維が風乾した。結果として生じる純粋な紙の作品は、対照的な2つの自明な状態にあります。角永はまた、13年以上の研究開発から生まれた注ぎガラスの作品を2点展示しています。これらの印象的なオブジェクトは、高さ10フィートから48時間、

カスタマイズされたアニーリングオープンに連続的に注がれた、溶けた通常の板ガラスの細い流れによって形成されます。決まった形。1999年の「ガラス No. 4-I」の重量は1,900ポンド(846kg)で、同じく1999年の「ガラス No. 4-L」の重量は1,477ポンド(670kg)です。また、1984年の「Bamboo No. 1-B」も展示されています。垂直の平面として表現されたこの作品は、ゆっくりと窯で乾燥させた50本の若い緑の竹の茎で構成され、深いカラメル色に変色します。素材の天然色素。これらの作品のそれぞれにおいて、アーティストは、工業的に生産された天然素材を工業技術とともに持ち込み、結果として生じるフォームが素材の固有の可能性の純粋な表現を伝えるように設計されました。「それぞれの生物、植物、動物には魂があります。私の芸術は魂を明らかにしています」とカドナガは言った。1946年生まれの石川県白山市にスタジオを構え。ギャラリーの時間：火曜日から土曜日、午後12時から8時。詳細については、

call (323) 450-9409, email
gallery@nonaka-hill.com or visit
<https://nonaka-hill.com>.